

## 1 題 材 墨と水が描く世界 (絵や彫刻など)

## 2 題材の目標

- (1) 墨の濃淡や筆の線の勢いなどが感情にもたらす効果を理解し、墨や筆の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫し、制作の順序などを考えながら見通しをもって表すことができる。
- (2) 想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係を考え、墨による表現の効果を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。造形的なよさや美しさを感じとり、作者の心情や表現の意図と筆使いや水加減の工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表現したい主題を基に構想を練ったり、意図に応じて筆使いや水加減を工夫して表現したりする表現の学習活動に取り組もうとする。墨による造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについての見方や感じ方を広げる鑑賞活動に取り組もうとする。

## 3 学習の計画 (3時間完了)

第1時 (本時) 水墨画を鑑賞し、水墨画の特徴を見つけ、基本の筆の使い方を知る。

第2時 主題を決定し、さまざまな技法を使って制作をする。

第3時 完成した作品の印象や特徴を互いに説明し合い、題名を付ける。

## 4 本時の学習指導

## (1) 目 標

- 墨による表現に関心をもち、意欲的に特徴を見つけることができる。
- 水墨画の技法から自分なりのイメージを考え、制作につなげようとする。

## (2) 準備・資料

- 生徒……タブレット端末
- 教師……ワークシート、和紙、書道用具、タイマー

## (3) 関 連

- 1年 美術 屏風、美のしかけ (鑑賞)
- 2年 美術 筆と水で多彩に表す (絵や彫刻など)
- 3年 美術 自分を表現する色 (絵や彫刻など)

## (4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
興味付け	1 墨汁を見て、どのような場面で使うのかを考える。 ○使ってきた場面を発表する。 ○水墨画など絵を描けることに気付く。 ・習字で使う ・絵を描くことができる	3	○ 墨汁だけでなく、墨をすって見せることで道具の使い方を確認する。 ○ 水墨画は日本の文化であることを話す。
課題の把握	2 本時の学習課題をつかむ。 墨の可能性を広げよう。 ○参考作品を鑑賞する ・「雲龍」 (西本有紀) ○ワークシートの取り組み方を知る。	5	○ 水墨画の鑑賞をするためにタブレット端末で参考作品の付いたワークシートを配信する。 ○ 参考作品で気が付いたことを、ワークシートの写真に印を付けながら文章で記入させることを理解させる。

課題の追究まとめ	<p>3 参考作品を鑑賞し、感じたことを発表し合う。</p> <p>(1) 見つけたことや感じたことをワークシートに記入し、写真に印を付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勢いよく描かれている。</li> <li>・薄い点と濃い点が広がっている。</li> </ul> <p>(2) タブレット端末を使って、記入した内容をグループで発表し合う。</p> <p>(3) 教科書 P64 を見て、作品に使われている技法を調べ、ワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・没骨法</li> <li>・破墨法</li> <li>・積墨法</li> </ul> <p>(4) 今後の制作で使いたい技法を印象と共にワークシートに記入する。</p>	<p>45</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○参考作品の全体と細部に注目をさせ、表現意図を探らせる。</li> <li>○墨の濃淡について気が付かない生徒には、墨が水加減によって作られていることを助言する。</li> <li>○教科書を見て、筆の運びを指でなぞらせるなどして、筆の種類や勢いといった筆の使い方を探らせる。</li> <li>○グループは3～5人で組ませる。</li> <li>○発表がどの部分なのか伝わるように、画像を大きく見せて行わせる。</li> <li>○作品に使われている技法を資料から探し出させる。</li> <li>○タブレット端末で2次元コードを読み取り、水墨画の技法を視聴して筆の使い方や水の使い方を参考にさせる。</li> </ul> <p>評墨の濃淡や、筆の使い方などに気が付き、意欲的に特徴を見つけ記入している。 (ワークシート)</p>
	<p>4 本時の振り返りをし、ワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○墨には、どのような可能性があるのかを考え、どのように制作に生かしていこうかをワークシートに記入する。</li> </ul>	<p>50</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○参考作品では、制作意図のためにどのように水や筆が使われていたかを振り返る。</li> <li>○墨にはどのような可能性があるのかを水墨画の技法を交えて考えさせ、次時の目標をもたせる。</li> </ul> <p>評水墨画の技法から、自分なりのイメージをもち、制作に生かそうとしている。 (ワークシート)</p>

#### (5) 本時の評価規準

- 水による墨の濃淡や、筆の使い方による表現に関心をもち、意欲的に特徴を見つけている。  
(ワークシート)
- 水墨画の技法の生かし方から自分なりのイメージをもち、制作するための表現意図につなげようとする。  
(ワークシート)

### 5 備 考

#### (1) 学級の実態

- 本学級の生徒はさまざまな発見を見いだそうと意欲的に発言することができる。しかし制作作業となると、絵を描くことに自信をもつことができない。そのため、本単元では墨の濃淡や筆によるにじみやかすれからの抽象形に具体的なイメージを感じ取り、水墨画の表現技法を楽しみながら制作に取り組むことができるようにする。

#### (2) 指導の力点

- 参考作品の細部をじっくりと鑑賞させることで、墨の濃淡や筆の運び方の特徴を多く見つけることができるようにする。
- タブレット端末を使い、画像に分かりやすい印を付けさせたり画像を大きく見せたりさせることで、鑑賞で気が付いたことや感じたことを発表する際に、伝わりやすく行うことができる。

### 6 指導と評価